

アルプス(ALPS)処理水海洋放出反対

署名(オンライン&署名用紙)

推進ニュース

みやぎ生協・コープふくしま

推進事務局 情報発信チーム

発行日 2021/10/6

No. 10

賛同署名総数は

17,805

10/5まで

*オンライン署名

4,006

*署名用紙署名

13,799

人
人
筆

<https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm>

オンライン署名は右QRコードで直接 署名サイトへアクセスできます。

★オンライン署名と併せ署名用紙での署名も行っています。HPまたは事務局へお問い合わせ願います。



スマホはこちらから



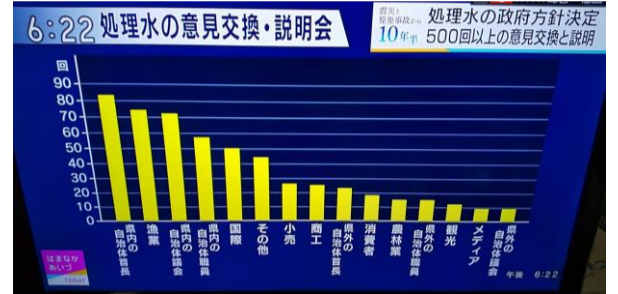
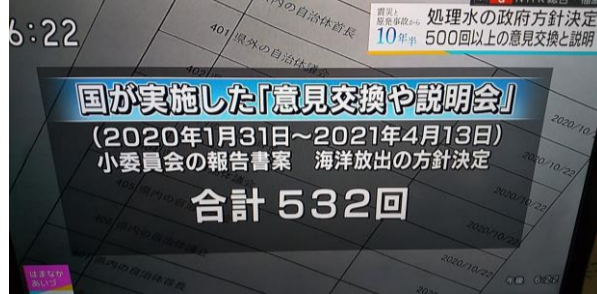
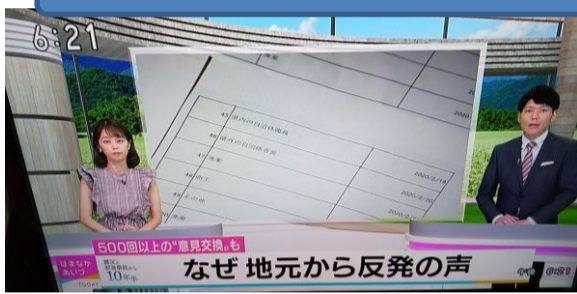
みやぎ生協・コープふくしまは
東京電力福島第一原発事故におけるアルプス処理水
(冷却水などの汚染水)の海洋放出に反対です。
反対署名運動へのご協力をお願いします。

<なぜ 地元から反発の声...処理水の政府方針決定 一方的でなくすには>
9月13日、NHK福島でALPS処理水海洋放出問題について取り上げられ、みやぎ生協・コープふくしま副理事長 野中俊吉ふくしま県本部長のインタビューが放送されました。国は532回もの説明会を実施しながら、なぜ国民の理解が得られていないのか。説明会に参加した漁業関係者、野中ふくしま県本部長がコメントを求められました。

NHK調べでは

2020年1月31日から2021年4月13日までに合計532回開催されそのうち自治体首長へ83回 漁業関係者74回 消費者18回とのこと。1日に最も多い日で14回が開催されたとのこと。内容は。。。

2021/9/13NHK福島「はまなかあいづ」特集



●漁業関係者は

詳しい説明はなく、海洋放出ありきの説明会だったと振り返る相馬双葉漁協の幹部。中身の濃い話を後日されるのかと思っているうちに(海洋放出が)決定してしまったと話す。



一方的な方針決定

処分方法などほとんど意見を交わさず。風評対策なんてほとんどなかったこれ(資料)ただ読み上げて終わりだった。

もう少し中身の濃い話を後日持ってくるのかな。という話のうちに決まってしまった。

海(海洋放出)にするかまだ決まってませんよ。と言うだけだった。

いま考えると海洋放出という前提の中での説明会で中身はどうであれただ"説明した"という形だけのものだったのかな。

●消費者は

消費者・組合員全員に向けた説明はなかった。回数を重ねただけというのは議論とは言えない丁寧ではないと話す野中さん。

既成事実作りのような説明会を何度開催しても住民は納得できません。住民が求めているのはうわべだけでなく、真摯に向き合い、不安や疑問に向き合う姿です。



コープふくしまの野中さんは、

- ・組合員への説明会は開催されず 消費者に意見を聞く機会は不足していたのではないかと
- ・全員が消費者である。広く消費者に向けてどういう説明をすべきかというのは、国や東京電力の配慮の問題で、そこに気が回らなかった、軽視されたのかどうかはわからない。
- ・数だけ重ねた回数を重ねたというのは議論とは言えないし、丁寧な説明とは言えない。

林先生(福島大学 准教授)の学習会 ②の様子はchange.orgサイトで動画配信中です。下記オンライン署名サイトにアクセスでご覧いただけます。

<https://www.change.org/Save-the-Ocean-fm>

<オンライン署名 賛同者コメント紹介>

- ・地元の理解が得られない見切り発車はあり得ません。
- ・そもそも政府が風評対策としてしていることがわからない。
- ・東電の電気を買わないことが一番の反対運動です。
- ・合意なく、いかなる方法も取らないと言ったにもかかわらず、海洋放出ありきのやり方には疑念しかありません。処理水の海洋放出に反対し、別の方法による処理を求めます。

【学習会を考えられている皆様へ】

学習会に関する問合せ・相談などお気軽に下記推進事務局にお寄せください。オンラインでの報告説明・意見交流などの調整も致します。(担当 夙戸)



<情報・お問い合わせ先>

みやぎ生協・コープふくしま ふくしま県本部内
「アルプス(ALPS)処理水海洋放出に反対する署名」推進事務局
〒960-8566 福島県福島市森合字清水7番地 コープふくしま いずみ店2F
Tel.024-557-1181 FAX557-5359 * mail :sn.f10243sn@todock.coop(根本)

◆林先生の主張は

- ・一貫しない説明
- ・特定原子力施設という特別な扱い・勝手な都合で(総量規制と濃度の問題)解釈
- ・廃炉と復興の両立 廃炉をする主体の側から一方的に両立の意味を決めてしまっている。(必要なのは復興する側の事業を対置していくこと)
- ・問題を含む小委員会の結論は(議論の経過も)まだまだ蒸し返して良い。国民にまだ委ねられている領域だ。



<編集後記>erikoのつぶやき

・車の中で揺れるコープのゆるキャラ、トドックとほぺたん。東日本大震災以降のつながりの中でいただいたものです。いろいろな生協さんから可愛いグッズをいただきましたがマスコットはこの2体。白くまトドックが灰色トドックになりかけていることから時の流れを感じます。子どもたちの成長を見守ってくれていたトドックとほぺたん。気が付けば、成人したこどもたち二人はそれぞれコープさっぽろとコープみらいの組合員になっていました。手元にあるマスコットが子どもたちの現加入生協という偶然。目に見えないご縁を感じ、マスコットがより愛しく思えた瞬間でした。

